「一所懸命」

－新年を迎えるにあたって－

開倫塾
塾長　林明夫

１．明けましておめでとうございます

新しい年を迎えるにあたり開倫塾では塾生の皆様に一本の手拭いを配らせて頂きました。御覧になられた方もいらっしゃるでしょうが、そこには「一所懸命」と書かれております。最近では「一生懸命」とよく言われますが、この「一所懸命」がもともとの言い方であります。「与えられた一つの所で命を懸けてがんばる」、転じて、「やらなければならないことを一瞬間、一瞬間全力を傾けて取り組む」ことが大事であると、この「一所懸命」ということばは教えてくれているように私には思えます。

御父母から与えられた尊い命と、今日まで育てて頂いた結果与えられた身体と精神を、有難いものだと信じ、自分の目標に向かって全力を傾けこの一年も取り組んで頂くことが御両親に対する恩返しでもあり、又、塾生一人ひとりの皆様の将来のためになることであると確信いたします。

開倫塾の塾生の皆さんのやるべきことは、将来に備え、知識をたくわえ、身体を鍛え、心を豊かにすることであります。学校という場所に籍を置くことは、学生の仕事は勉強をすることが中心であることを意味します。よく日本の学生は勉強しすぎで可哀相であるといわれますが、果してそんなに可哀相がられるほど勉強をしているかと私は思います。日本では学校週休 2 日制がスタートしつつありますが、これで確実に日本の若者の学習時間が減少し、その結果わが国の知的水準が低下することは確実であります。社会で働く人々は労働時間削減の旗印のもと、とうとう世界で一番公の休みの多い国に日本はなってしまいました。世界最高の賃金水準に日本が 87 年になり、日曜祭日を含めた公の休日が世界最高になった現在、その背後に、日本の賃金の 100 分の 1 ともいわれる中国・ベトナムがひかえ、日本人の 1.5 倍以上の時間働きづめているのですから、日本の競争力はかなり落ちることは確実です。今まで働きすぎたからこの辺で一ぷくという考えもあるでしょうが、これで学生が勉強しなくなったら更にわれわれの未来はないと言えます。

アメリカの有名大学の首席卒業生は、この何年間か、20 数年前にアメリカに行ったベトナム難民の子弟が占めているといわれます。文字通り、アメリカで一所懸命勉強した優秀なベトナムの若者が、アメリカでの高賃金の就職先を断り祖国ベトナムの再建のため続々と帰りつつあります。ベトナムでは、今日本のテレビドラマ「おしん」が大流行で、何回も再放送されています。日本もあのような苦しい状況からはい上り、今日を築き上げたのです。ベトナム人も、今は苦しくとも一所懸命働き、一所懸命勉強していつかきっと日本のような豊かな国をつくり、豊かな生活を送れるようにしたいと、がんばっているのです。

『私達は、休日・休暇が増えることに喜びを持つという側面があるが、これは実は落伍していくというプロセスであるということを心しなければならない。蟻とキリギリスの寓話は、盛んな時に将来のことを予め考えない人々は、時節が変わった時にひどく不幸な目にあうものであるという教訓の結びで終っている。「月満つれば即ち欠く」という言葉でもあろうし、「備えあれば憂いなし」といった世界でもあろう。余暇を楽しむことができるようになった我々が再び余暇を楽しむどころではない時代になることを頭におかなければならない。わが国の経済的な力量が今ほど高まった時代はないがこの時代に改めて日本の将来を考えることが必要なのである』（高井伸夫法律事務所発行「経営法務情報」89 年 10 月号、高井伸夫弁護士執筆「余暇と競争社会」より引用）

産業革命以来「世界最高の賃金国」つまり「世界一豊かな国」はイギリス→フランス→アメリカ、そして 87 年に日本となったが、アメリカまでは、すべて何年か後に他の国に取って変られ、豊かであった分、たいへんな状況に陥っているのが実情です。日本は何だか「キリギリス」のように思えてなりません。ただ、これから先、どのような問題が起こるのかは、かなり予測できますので、十分それらを研究して、自分たちのできる範囲内で、がんばっていく以外にないと思います。その意味で、今まで日本に住む人々ががんばってつくり上げたものを、遊び呆けて無にすることのないよう、一所懸命に守り育てることも現代に生きる我々の責務ではないでしょうか。

自分自身のことも「一所懸命」考えると同時に日本のことも「一所懸命」に考え、自分でできる範囲のことをがんばってやっていく、そんな一年に今年もしていただきたいものだと、年の始めに希望いたします。

２．受験生の入試直前までの過し方

一日の大半を勉強に費すことのみと言えます。入試をいくつか受けると思いますが、受ける瞬間まで一所懸命に勉強をし、その試験が終了したら一切忘れて、次の試験に備えること。最大の敵は他人ではなくて、「ウジウジ思い悩むことに貴重な時間を浪費する」ことです。

「友だちから悩みを聞く時間」「友だちに悩みを打ち明ける時間」「どうしようと一人で悩む時間」を合計したら一日何時間になるかを毎日記録するとよい。いくら悩んでも成績は少しも上らない。上らないどころか、悩まず勉強している人にアッという間に追い抜かれてしまう。ですから、受験生にアドバイスしたいことは「悩む時間は 1 回 30 分以内と決めること」です。悩む時間が少なければ、勉強できる時間が増え、合格する可能性も増える。悩む時間や人の悩みをきく時間が増えれば、勉強時間が減り、合格する可能性が低くなる。単純な話です。

どのように勉強してよいかわからない、どうしても家では勉強できない、何を使って勉強してよいかわからない、このような人は、放課後学校が終って、家に一度よってから、お弁当をいくつかもって開倫塾に勉強に来て下さい。部屋があいていればどうぞそこで勉強して下さい。先生をつかまえて、どんどん教わって下さい。職員室で勉強してもＯＫです。塾生の皆さんの試験の前日まで、開倫塾ではやれることは何でもさせて頂きます。夜は 10 時まで、授業がある日も授業がない日もどうぞ開倫塾で勉強して下さい。授業の前にも開倫塾に来て勉強して下さい。

ただ、くれぐれもお願いしたいのは、悩まないこと。悩む時間があれば、開倫塾に来て勉強すること。

もう少しですから、がんばって下さい。

３．『いじめ』について一言。

（１）ないとは思いますがもし開倫塾の中で『いじめ』やいじめに近いことがあれば、担任や校長に直接連絡して下さい。担任や校長でラチが明かなければ、直接塾長である私まで TEL、下さい。私が不在なら、教務部長渡辺又は総務部長島田、企画開発部長川村をよび出して下さい。必ず、何らかの対処をいたします。

午前 11 時から午後 5 時なら本部には必ずだれかいます。

（２）学校等での『いじめ』について

担任→学年部長→校長の順で相談し、ラチがあかなかったら教育委員会→警察検察庁・人権擁護委員会・弁護士等に相談なさるとよいと思われます。

（３）根本は、心豊かな子どもを育てることが大事かと思います。開倫塾でも、勉強の他に、開倫塾教育目標に掲げられている「高い倫理・高い学力・高い国際理解・自己学習能力の育成」の原点に立ちかえり、できる限りのことを創塾 15 周年でもありますので本年からさせて頂きたく思いますので、よろしく御協力下さい。

一所懸命がんばりますので、本年もどうかよろしくおねがい申し上げます。

感　謝